

令和5年度第3回恵庭創生懇談会議事録（要旨）

日時	令和5年12月14日（木）16：00～17：30
場所	恵庭市役所 第2・第3委員会室
出席者	小磯 修二（北海道文教大学 地域創造研究センター長） 石田 庸三（恵庭工業クラブ(サッポロビール株式会社 北海道工場 副工場長)） 大泉 晃（恵庭商工会議所 青年部会長（大泉塗装 代表）） 安藤 隆善（北洋銀行 恵庭中央支店長） 岡部 利夫（北海道銀行 恵庭支店長） 長太 裕一（連合北海道恵庭地区連合 会長） 業天 章裕（千歳公共職業安定所 所長） 矢野 敦子（北海道石狩振興局 地域創生部長） 中村 敦史（中央コンピューターサービス株式会社 地域デザイン事業部 CX推進課長）
報告	（1）恵庭市附属機関設置条例制定にかかる恵庭創生懇談会の位置付けについて
議題	（1）第3期恵庭市総合戦略の素案について （2）第3期恵庭市総合戦略の策定スケジュールについて

流れ	内容
開会	●企画振興部次長 開会のあいさつ
委嘱状 交付	●市長 委嘱状交付
市長 あいさつ	●市長 皆さまお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。 本日改めて委嘱状を交付させていただきました。恵庭市附属機関設置条例を新たに制定いたしまして、それに基づいてこの懇談会も位置付けされるということで改めて委嘱をさせていただきました。 今回は第3期という新たな総合戦略を策定して、それに基づきながら今後の市政を進めてまいりたいと考えておりまして、その3期の総合戦略の策定をこの懇談会でご審議をいただくということになっております。 これまでも恵庭のまちづくりについて、皆さまからそれぞれの分野から様々なご意見をいただいております。そうしたことをこの3期総合戦略に

<p>市長 あいさつ</p>	<p>見える形の中でこれを作り上げていきたいと思っておりますし、これまでのご意見については盛り込んだつもりでありますので、よろしくご審議をいただきたいと思っております。</p> <p>「えにわか」という恵庭市公式ポータルアプリがありますが、国のデジタル田園都市国家構想交付金もいただきながら運営しているところがあります。「えにポ」という機能が11月15日から開始されまして、大変多くの方々に使っていただいているところでもあります。どうぞ委員の皆さま方もダウンロードしていただき、ご参加をいただければと思っております。</p> <p>こうしたことをはじめ恵庭を取り巻く環境、状況は変化しております。もちろん近隣のラピダスの影響や、今年の3月にオープンしたエスコンフィールドでありますけれども、そういった周辺の状況がずいぶん変わろうとしております。それに少なからず私どものまちも影響を受けているわけありますので市民が幸せに生き、生活できるための方策を考えていきたいと思っております。そういったことをしっかりと第3期総合戦略に位置付けてまいりたいと思っております。</p> <p>一方、北海道文教大学には小磯会長にセンター長になっていただいて、地域創造研究センターというのを今年の4月に立ち上げまして、これまでも幾度かフォーラムやセミナーをやっていただいているのですが、そこでもたくさんの貴重な恵庭のまちづくりについてのご意見やご提言をいただいております。そういったようなこともこれからのまちづくりに活かしながら進めてまいりたいと思っております。</p> <p>皆さま方のお気付きのところやそれぞれのご意見等をこれからもたくさんお寄せいただいて、さらにこの素案を確定していきたいと思っておりますので、よろしくご審議されますよう心からお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>確認</p>	<p>●企画振興部次長 配布資料の確認</p>
<p>報告</p>	<p>●事務局 報告 「(1) 恵庭市附属機関設置条例制定にかかる恵庭創生懇談会の位置付けについて」 説明</p>
<p>確認</p>	<p>●企画振興部次長 欠席者及び委員の交代について説明・出席人数の確認</p>
<p>自己紹介</p>	<p>恵庭創生懇談会委員あいさつ 委員自己紹介（新規委員のみ）</p>

<p>会長 あいさつ</p>	<p>●会長</p> <p>これまで恵庭市の総合戦略につきましては第1期からずっと座長ということで進めさせていただきました。今回会長になってご挨拶ということなのですが、名簿に記載がありますが私は一般社団法人地域研究工房の代表理事をやっておりまして、いろいろな活動を実施しております。先ほどの市長からもご挨拶の中で触れていただきましたが、この4月から恵庭市にある北海道文教大学の中に地域創造研究センターという新しい研究センターができて、そのセンター長ということで活動しております。</p> <p>北海道文教大学の地域創造研究センターというのは、恵庭市において大学という立場でこれからの都市政策、地域づくりに向けたいろいろな政策研究を、プラットフォームという形でいろいろな方たちが大学、アカデミズムの場に集いながら検討し、そこから新しい全国に向けての政策を発信していく、そのような挑戦的な取り組みを目指している機関です。</p> <p>この8月に今後進めていく方向を提案させていただいたのですが、一つは「文化創造都市」と申し上げておりますが、いま近隣では千歳にはラピダス、それから北広島ではエスコンフィールドというような外発的な大きな動きがあります。その中で恵庭市の取り組みとしては文化創造という、それは簡単に言うと、人口減少の時代になり、高い成長をこれから期待できない時代の中では足元にあるいろいろな資源を文化資源として改めて見直しながら、そこに価値をつけて新しい事業、政策、まちづくりを進めていこうということです。北広島の動きに比べれば内発的なじっくりとした動きでスローではありますが、そこに新しい価値を見出していこうという政策提言をさせていただいたところでございます。</p> <p>その思いでこの総合戦略という、恵庭の大事な都市政策に関わる議論にも参加していきたいなという思いでございますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>議題</p>	<p>●事務局</p> <p>議題</p> <p>「(2) 第3期恵庭市総合戦略の素案について (3) 第3期恵庭市総合戦略の策定スケジュールについて」 説明</p> <p>●会長</p> <p>皆さんの方からご質問、ご意見を伺いたいと思います。</p>

●A委員

私は小学校の教職員をしていますので、そちらの立場からお話させていただきます。

先日、社会見学で郷土資料館に行ったのですが、大変素晴らしい施設で、事務局からの説明にもありましたカリンバ遺跡のことも展示があり、大変良いのですが、少しアクセスが悪いのが難点と感じました。学芸員さんとも話したのですが、カリンバ遺跡の近くに分館のような形でもありと恵庭駅からも近くなって良いのかなと思いました。

資料2の26ページ⑱教育環境の充実、学力向上のK P Iについて、タブレット端末を毎日使用する割合は大変いいことだと思うのですが、あわせて児童生徒が使っているクロームブックの耐用年数を考えていただいて、ぜひ見直しを持って入れ替えをしていただきたいと思います。例えば小学校でいえば6年生が卒業したら、次の1年生には新しいものを入れていくといったことを計画的に進めていただかないと毎日使用する割合も高まらないと思います。

また、公共施設のWi-Fi環境について本校でも夏冬休みの宿題を、クロームブックに入っているドリルを保護者から年間1,000円を徴収して入れているのですが、共働きで日中、学童に預けている家庭があり、学童ではWi-Fi環境がなく宿題ができないということがありました。学童のWi-Fiは対応いただいているところですが、児童生徒が過ごすであろう場所を中心にWi-Fi環境を整備していただければ、GIGAスクールも進むと思われました。

中学校の先生とも話す機会があり、部活動指導員がなかなか進んでいないのが現状でまだ先生が部活を見ている割合がかなり高く、それは指導していただく方への謝礼が些少だからであるということを知っています。中学校の先生も多忙という話も聞きますので、恵庭市だけでも他の市に先駆けて報酬を高めるような方向で進めていければ、こちらの方も進むと感じています。

●B委員

22ページの⑲就労促進はここだけ個別の事業が載っているのですが、これは中長期的な計画なので、大きくりの事業を載せたほうが良いと思いました。

15ページのさっぽろ連携中枢都市圏の事業、22ページの⑲と23ページの⑳高等教育に関連して、さっぽろ連携中枢都市圏の事業で恵庭の大学に進学された方、恵庭市民に対する奨学金に関して就職したら奨学金の返済54万円をまかなってくれる制度がありまして、本日資料をお持ち

意見交換

ちしました。この圏域に住む、この圏域の事業所に就職した場合に、就職して2年目から3年間に渡って、54万円返済してくれるものになります。月1万5,000円ずつ返済すると仮定した場合というので、年間18万円になり、3年間に渡ることによって定着にも寄与すると思います。年間18万円の内訳は半分は企業が寄付をし、半分は、札幌市の基金から出ています。3年間で54万円というのは大体、国公立大学の年間の学費くらいだと思いますが、恵庭市で参加している企業は5社しかありません。全体で330社、募集が100名なのですが、前年度は100名を超えたようです。

学生支援機構の調査だと恵庭市は奨学金を受けている方がいます。大学に行った方は奨学金を返済している期間、1万5,000円を15年払っていくことを考えると卒業して37歳まで払っていくことになります。結婚しようか、子ども作ろうか、家買おうかなどを考えたときに、この地に就職して住んでというときにこれからも先々の生活の足かせになっているかもしれない奨学金の返済を少しまかなってもらえるのは、地方自治体にしかできないことだと思っています。これをもう1年プラスで恵庭市がまかなう、9万円出してくれる企業を増やす、そういうところをすると切れ目のない、この地に住んで子どもを育てていく、就労継続していくということにも繋がると思います。

●会長

特に若い世代において、インフレが長く続いているので奨学金の返還がかなり負担になっていると思います。それに対する政策的な支援を一つの政策スキームとして検討していくのは非常に大事な提言だと思います。

●C委員

私はデジタルの視点で、27ページ以降に横断的施策展開ということで大きく4つのテーマが書かれていたと思うのですが、やはりどれにもデジタルというかICT的な視点というのはやはり必要であると感じています。特に先ほども話に出ていましたが、公共施設のWi-Fi整備は行政として整備する際に、どういう場所に優先的にやっていくかという計画を考えた方がいいと考えています。

Wi-Fiは特にインバウンドの観光客なども限られたパケットの中で使うのはなかなか難しいので、Wi-Fiを求めているような状態になっていると聞いています。恵庭市に来て体験していくのを今後のテーマとするのであれば、Wi-Fiはかなり強化していく必要があると思っています。

Wi-Fi整備のときに自治体の方で、年度単位で環境構築の業者を選定するときいろいろな仕組みが入ってしまって、各々にアカウント登録をして使わないといけないケースも散見するので、共通の基盤としてすぐ

意見交換

に利用できるような環境を整備された方がいいと思います。

その中で「えにわか」のようなアプリを構築して提供していると思うので、例えばここに必ずアプリを入れてそこからWi-Fi にすぐログインができるというそういう一つ仕掛けをすることによって、アプリもダウンロードされますしWi-Fi にもすぐ接続ができる。そういうところの仕掛け作りというのは、計画段階で考えてみたらいいのではないかと思います。

私はふるさと納税の関係でも市に関わっておりますが、それは通常の予算とは違って魅力あるものをどんどん発信することによって、市として財源確保にとっても貢献ができる制度と思っています。同時に、事業者にとっても効果が高い取り組みになっています。

積極的な事業者もいる中で、自治体として提供している新規商品開発の補助があればより商品開発を頑張れる事業者が増えるのではないかと考えています。

企業版ふるさと納税の推進というところで、最近の状況が気になりました。私たちも企業版で寄附をしておりますが、どういう企業が、どういうことを支援していくのかを聞いてみたいと思います。

最近では自治体の企業版ふるさと納税のコンサル業務などを他の地域でやっているのですが、企業側は寄附したときにどういうプラス材料があるかを戦略的に考えているところが増えてきていると思います。そうなった場合に、寄附をした後に自分たちが活躍できるフィールドがあるかという部分に関して、ホームページ等で見える化をしてみるといいのではないかと考えています。

また、自治体の会議室でパソコンを持って打ち合わせをする方も増えてきていると思うのですが、外部の方でも使えるようなネットワークがあればいいと思います。

●会長

後半にご意見のありました企業版ふるさと納税について、どのように安定的な恵庭の政策に結び付けていくかというのは非常に大事だと思います。

また、Wi-Fi については非常に大事な話で、私も先々月、久しぶりに海外に行きましたが、Wi-Fi 環境がない中でモバイルだけのサポートに頼るといのは不安定かつ非常に大きな問題です。それを見て日本のWi-Fi の遅れというのは観光インバウンド戦略だけではなく、国際交流都市を目指す以上は大事なテーマで、問題意識を強く持つ必要があると思います。

●D委員

最近恵庭市に引っ越してきた者の意見としてお聞きいただければと思います。

住み始めて3ヶ月でお話のあったとおり、札幌と千歳の間にあって確かに本当に便の良い場所で、平野が広がっていて自然も豊かで、北海道の中でも有数の贅沢な立地があるのではないかと思います。その中で今日いろいろな施策をお聞きして、住民の住みやすさというところにフォーカスが強いと思っていて、住民満足というところで人口増加とかそういうのを図っていくというのが、率直にはそういうところのサービスを充実させるのが優先なのだろうと思っています。

我々企業としてはいわゆる雇用、働き口として、先ほどの奨学金の話で地元に戻ってくるときにそういう企業があることによって、出て行った人が戻ってくる効果もあるというのを頭に入れて仕事をしなくてはいけないと思いました。

恵庭は中央に位置しており、とても便利なところだと感じました。その中で駅前の賑わいというところで、駅前にもう少し人が集まれるようになるといいと思います。

●E委員

資料2の27ページの一番下の出生率向上の実現はこれからの目標だと思います。

資料2の8ページの資料を見て、高校生の生徒数が少し減ってはきていますが今は多いと思います。私は10年近く前にPTA会長をやっており、そのときは小学校に子どもがすごく多かったので、その子たちが今高校生になっているからこの数字なのだと思います。でも小学校の児童数はどんどん減っています。子どもが減っていつている、出生率の低下、少子化ということでしょうか。正直子どもを作って生活するのは大変なところもあると思います。

子育て世代に何かもう少し手厚いことができるのもっと恵庭で生活しやすいのかなと思ひまして、知り合いに母子家庭がいるのですが、高校生と中学生の食べ盛りの子どもたちがいて、食費などとてもかかっているようです。前に恵庭市で2,000円の商品券を配っていて、食費ですごく助かると喜んでいました。全世帯とは言わないですができるのであれば子育て世代にもう少し手厚くしてもいいのではないかと思います。

先ほどの奨学金の話について、知り合いに大学に入学した方がいて奨学金を借りる手続きをしていたので、まだ先のことではありますがこのことを話してみようと思います。

● F 委員

私は金融機関に勤めていますが、22ページの⑬就労促進に関する部分で、お客様から会社の採用の募集をかけても全然来ないという話を聞きました。ラピダスが来た時に人を持っていかれるのではないかと危惧されている経営者の方が多いという感想を持っています。そこで、外国人の受け入れを行っている会社にデメリットや苦勞したところ、いい部分を聞いて、それを還元できないかなと思ってやっています。市全体でも、例えば外国人の受け入れや、就活、障がい者の方、どちらかという働き口ではなく、働く人の確保にスポットを当てていただければ、効果は大きいのではないかと思います。

● G 委員

資料2の17ページの⑦住宅政策の推進ということで、市長もおっしゃっているとおり私も1年近く恵庭に住んでいますが、住環境が良いまち、住みやすいまちと思っています。

市街化区域の拡大の検討を進めていかれるというときに、札幌では狭小住宅というような40坪ぐらいのところに3階建てを建てて、これが土地建物で4,000万円から5,000万円ぐらいなので買える方が多いです。そうすると小さな土地に対する評価が上がって、それがおそらく地下鉄沿線の地価の上昇を招いているのではないかと、個人的に考えています。

恵庭は区画一戸ずつが大きいので、庭があつて家があつて、そこに花があつたりして本当に住みやすいというところが非常に魅力だと思います。用途地域を定める際に、例えば低層住宅の用途地域にして建ぺい率を60%ぐらいで抑えろとか、そういうことをすることで地価の上昇も抑えられ、恵庭のイメージも守っていけるのではないかと思います。恵庭の広く区画を取って本当に一人一人が住みやすいところがいいと思うので、そういうところを検討いただければいいと思います。

空き家の関係に関しては、最近中古住宅をリノベーションしてその後に入られる方も結構多くいらっしゃいます。戸建ての解体はアスベスト調査などを含め300万円から400万円かかってくるという現状です。一方で、躯体がしっかりしていると30年ぐらいの住宅でもリノベーションして使えるというような話も出てきております。空き家については、所有者を調べてそれをどうするかという非常に入口が難しい問題だと思うのですが、ここを活性化していくとある程度安価に住宅の再販ができるので、ここも人口を増やしていくうえでは活用できると思っています。

意見交換

●会長

恵庭らしい広い区画、いわばこれから求められるアメニティを恵庭が目指していくというのは、私も非常に大事な視点だと思います。特に今のラピダスの動きなど、グローバルな交流という視点で見ると、どういう方たちがこれからこの地に何を求めるのか。生活環境、教育環境を含め、少しゆとりのあるものをこれから求められていくのではないかと思います。

●副会長

恵庭の最大の特徴は花だと思います。花は観光を呼び込むためというのはもちろんなのですが、例えば移住を促進するに当たりプロモーションをするときに、子育ての施設がいっぱいあるというのは大事ですが、さらに花があるまちというのはさらに子育て世代の印象がいいのではないかと思います。

もっといろいろな分野で「花」の部分押し出してもいいと思っていて、これからパブリックコメントをされると思いますが、例えば「えにわか」のアイコンは恵庭は花のまちというのがわかりやすいので、総合戦略にもそういうアイコンのような、一目で花のまちというのがわかるものがあるといいと思いました。

●会長

この間の日曜日だったと思いますが、日経新聞にドイツのベルリンの紹介記事があって、見たときに思わず恵庭かなと思いました。スローフラワーという言葉があり、地元をしっかりこだわったガーデニングが北米発で始まり、それがヨーロッパ、ドイツで定着している、それを紹介した記事でした。

皆さんのご意見の中にもあったように、恵庭の良さを改めて見つめ直し、しっかり深めていく。そこに新しい動きの中でもより輝きを放つような、まちづくりという中で花のまちというのは改めて、どういう形で今後進めていけばいいのかというところを深掘りと言いますか、この総合戦略の中においてもどういう形で展開していくのか、しっかりと議論を今後とも進めていく必要があるのではないかと思います。

皆さんから出た中で、いろいろご質問、それに関わる部分もあったと思いますので、市の方でご回答いただけるところ、ご説明していただけるところがあればお願いしたいと思います。

●市長

全てお答えできるかどうかわかりませんが、ご質問のところについてお話をさせていただきます。

学校のICTもこれから更新時期ということで、国も基金を作るという

意見交換

このようですから、しっかりと更新できるようにしていきたいと思っています。

また学童クラブのWi-Fi環境も、逐次整備しております。

奨学金が恵庭市は5社しかないということで、こういったようなことを商工会議所やいろいろな会社に呼び掛けし、おそらくこの制度があること自体知らないということもあると思いますので、増やしていくこともありますし、市としてPRも行っていきたいと思っています。

ふるさと納税に関連して、商品開発の助成、支援は国もありますし、苫小牧から恵庭までの区域に財団がありますので、そういったことを紹介する、または、恵庭の中でも農商工連携で助成するということがあります、活用しながらやっていきたいと思っています。

企業版ふるさと納税は、やはり企業にとってもメリットがなければならぬのですが、最近は特に保険会社、生命保険の会社の方が積極的にやっていただいて、私ども連携を結んでいるところも非常に積極的です。今恵庭に勤めていただいている課長職の女性は、企業版ふるさと納税で来ていただいております。

地域貢献をしているというパンフレットをそれぞれ会社ごとに持ってきますが、ほとんどが企業版ふるさと納税をこのようにやっていますというPRが入っていますので、企業にとってもPRするポイントになっているのではと思います。

企業版ふるさと納税は割といただいています。去年は緑化フェアがあったということでたくさん金額だったのですが、その後もいただいています、やはり企業の皆さま方の企業版ふるさと納税に対する考え方は、段々浸透してきているのではないかと考えています。

●企画振興部長

「えにわか」ですが、地域再生計画を作ってデジ田交付金をいただいています、企業版ふるさと納税をいただいたおかげで、当初3年間だったのが5年間の開発ということで、進めさせていただいております。

石狩振興局の若者定着事業の方も、恵庭の企業版ふるさと納税が採用されて、そちらも期間が伸びたというお話を聞いています。

●市長

駅前の賑わいが無いというのはそのとおりでありまして、駅を降りてもなかなかコーヒーを飲んだり時間を潰すところありませんし、えにあすまで来てくれば図書館もありますので、これから民間の方々が挑戦できるような環境を作っていきたいと思っています。まだまだ足りない分がたくさんありますがそういったことについても、総合戦略に記載をしながら

意見交換	<p>取り組んでいきたいと思ひます。</p> <p>花について、もっと打ち出した方がいいのではないかというお話がありましたが、それと関連して20ページから21ページについて、地域資源（観光・文化資源）活用観光振興になってはいますが、たくさんありますのでそれを整理して、文化創造という項目を一つ分けて、花、読書、恵庭市らしい文化、アートな文化や読書文化、またはもちろんカリンバ遺跡もありますし、郷土資料館に関わるものもありますので、そういった文化、もちろん郷土芸能みたいなものもありますので、そういったものも含めて一つ項目を起こしたらいいのではないかと、私からもこの場で提案をさせていただきます、一般的な観光については従来のところに置くということを提案させていただきました。</p> <p>いろいろご意見をいただきましてありがとうございます。そして、いただいた意見についてはしっかり反映させる工夫をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
	<p>●会長</p> <p>先ほど私が申し上げた、文化創造都市という今取り組もうとしていることについて、観光、文化という切り分けではなく、地域にあるこれから可能性のあるものが幅広く文化資源としてみていく、もちろんそこには観光的な要素もありますが、そういう幅広い視点でここを取りまとめていただければと思ひます。</p> <p>先ほど出た意見の中で、F委員の方から働き手がないという、想定していなかった事態が起きています。雇用の問題というのは、働き口がない、そこをどう調整するかというスキームでずっと議論されてきたのが、今は新しい企業、産業を興そうとしても働き手がないということがネックになっています。これからの人口減少の中で当然予想される事態であると思ひています。働くという働き方の対応というのを、人を求めているところとマッチングさせる、例えばこれからものすごい高齢化時代になると思ひますが、高齢の方でも働けるような働き方というのを上手く企業側のニーズと結びつけていくような新しい仕組み作りはこれからの政策の中で雇用政策として求められると思ひます。これは今ある仕組みではないのですが、そういうところに対しても地方自治体が地域政策として、検討していく、そのような方向で向き合っていく。新しい変化に上手く向き合うような、そういう姿勢をどこかで示していただけたらいいと思ひます。</p> <p>今も恵庭の人口増となっている大きな要素は外国人労働者です。これまで技能実習ということでしたが、今は技能実習の政策のスキームも変わってきています。外国人の方々の形態をきめ細かく分析しながら、外国人</p>

意見交換	<p>労働者についての分析を進めていくというのも、これからの恵庭の総合戦略の進め方として大事な部分だと思います。</p> <p>観光について、私は今までご意見を申し上げたことはなかったのですが、これから北海道を含めて地域にとって観光戦略の大事な視点は、これだけ人口減少で域内の経済需要が縮小していく中で需要を高めていく、稼ぐ産業としての観光という認識で取り組むことです。それが観光政策にとって大きな意義だと思います。そうなってくると、観光入込というただ人に着目した政策目標は、どれだけたくさん来てくれてもお金を落としていただけなければ全く意味がないので、政策目標としては観光消費、人に着目した数字ではなくて、観光消費というところに着目した戦略が大事だと思います。それで改めて見るとここでは観光入込の数字しかないのですが、そこは観光消費という視点で、現在私は産業関連表作成のお手伝いもしていますが、消費を高めていくという経済波及効果の試算もされればよいと思います。私は恵庭の観光政策、計画をあまり承知していませんが、観光消費の実態調査はどこまでされているのか、例えば日帰りでありあまりお金を落とさない、そういう入込はあまり意味がなくて、できれば宿泊で仮に日帰りであったとしてもしっかりお金を落とさせていただく。そのためには今の恵庭の実態を調べていくことも大事だと思います。特に総合戦略をこのように変えてほしいというわけではなく、今後の方向としてそういう問題意識を持って進めていただければという気持ちで付け加えてお話をさせていただきます。</p>
閉会	<p>●企画振興部次長</p> <p>閉会のあいさつ</p>